

九州大学附属図書館付設教材開発センターだより

ICER Newsletter

これからの教材開発へ向けて 大学ICT推進協議会年次大会へ出展しました

2013年12月18日から20日に幕張メッセ国際会議場で開催された、大学ICT推進協議会2013年度年次大会に参加しました。

教材開発センターとしては展示ブースを出展し、本センターの概要や主な活動である電子教材作成支援、講義等の動画配信について、来場者の方々に紹介しました。また、出展者セミナーでは Adobe Edge Animate を用いたインタラクティブ教材を作るワークショップを行いました。

出展ブースにお越しいただいた方の中には熱心に質問される方も多く、企業・大学ともに動画配信や電子教材を教育の場に導入することへの高い関心がうかがえました。



特に、本センターと同じように教材作成に取り組んでいる大学関係者の方々からは、多くのご意見をいただきました。他大学の方々も動画配信における著作権処理や撮影体制に関して同じ悩みを抱えていたり、本センターにはない教材作成のノウハウや体制のお話を聞けたり、非常に有益な情報交換ができました。

まだまだ多くの課題がありますが、今回いただいたご意見を活かし、今後も教材作成支援に取り組んでいきたいと思えます。

【中園 沙貴(テクニカルスタッフ)】

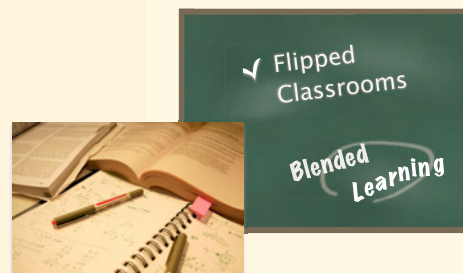
大学ICT推進協議会 (AXIES:Academic eXchange for Information Environment and Strategy)

「高等教育・学術研究機関における情報通信技術を利用した教育・研究・経営の高度化を図り、我が国の教育・学術研究・文化ならびに産業に寄与する」ことを目的として設立。会員ならびに国内の高等教育・学術研究機関間での情報交換の場として、年に一度年次大会を開催。年次大会は、2011年に第1回が開催され、今回の2013年度年次大会で3回目の開催となる。

電子教材をつくりませんか？

電子教材の利用は、最近話題になっている反転授業 (Flipped Classrooms) や融合学習 (Blended Learning) を可能にします。学生に電子教材を使って予習をもらい、実際の対面授業では、別の教材を使って予習の内容をさらに深めた内容の講義をするとか、ディスカッションや演習により学生の理解をより深める授業内容にするなどが考えられます。電子教材の提供は、何時でも何処でも予習や復習ができる良好な学習環境を学生に提供することにもなります。今年度から PC 必携化が実施され、無線 LAN 環境も整備されたことから、どこの講義室でも電子教材を用いた授業が可能です。

教材開発センターでは、電子教材作成のお手伝いをさせていただきますので、是非、電子教材を活用した授業を実践してください。



【岡田 義広 (教材開発センター教授)】

多様なテスト問題を利用しよう

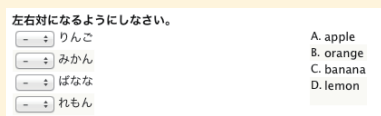
Web学習システム (Blackboard Learn R9.1) では、テストアンケート機能が用意されており、質問の形式として、ファイル提出問題 (テストのみ)、画像の座標指定問題、記述問題、穴埋め問題、作文問題、質問文作成問題、数式計算問題、数値問題、正誤問題、組み合わせ問題、多肢選択問題、二択問題、評価/リッカート問題、複数解答問題、複数穴埋め問題、文章完成問題、並べ替え問題など、全部で17種類あります。

ファイル提出問題では、受講者は質問の解答としてファイルをアップロードします。



▲ ファイル提出問題の例

組み合わせ問題では、ある列の項目を別の列の項目と対にします。



▲ 組み合わせ問題の例

Web学習システムのテストアンケート機能 (全17種類)

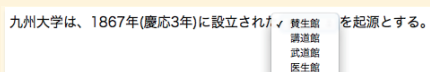
ファイル提出問題 (テストのみ)	画像の座標指定問題	記述問題	穴埋め問題	
作文問題	質問文作成問題	数式計算問題	数値問題	正誤問題
組み合わせ問題	多肢選択問題	二択問題	評価/リッカート問題	
複数解答問題	複数穴埋め問題	文章完成問題	並べ替え問題	

記述問題では、受講者がテキストボックスに解答を文章で入力します。



▲ 記述問題の例

文章完成問題では、受講者がドロップダウンメニュー内の一連の単語から正しい単語を選択して文を完成させます。



▲ 文章完成問題の例

【井上 仁准教授 (教材開発センター協力教員)】

知っていますか? 電子教材の著作権

Q 引用の範囲内であれば、翻訳して使用してもよい?

A 引用の範囲内であれば事前の許諾申請なしに翻訳可能です。

外国語に不慣れな学習者が理解しやすいように教材を作成することは、目的がなっていると云えます。このため、他人の著作物中の外国語を翻訳して表記する事例を見かけます。講習会等でもしばしば質問を受けます。

従って、あまり知られていないようですが、引用を適用する場合 (著作権法第32条) や授業中に配布する資料 (同第35条) は、同第43条に定められているとおり、翻訳して利用することが可能です。



【吉田 素文教授 (教材開発センター協力教員)】

これからの講習会・講演会開催予定

電子教材著作権

大橋	2014/2/18	10:30~12:00	情報基盤開発センター大橋分室2階第3実習室
箱崎	2014/5/13	10:30~12:00	中央図書館第2情報サロン

Web学習システム

2014/3/17	10:30~12:00	箱崎
2014/3/17	17:00~18:30	病院
2014/3/18	10:30~12:00	筑紫
2014/3/18	13:30~15:00	大橋
2014/3/19	10:30~12:00	伊都

Handbook

2014/3/19	14:30~16:00	箱崎
2014/3/19	17:00~18:30	病院
2014/3/20	10:30~12:00	大橋
2014/3/20	14:00~15:30	伊都
2014/3/31	10:30~12:00	筑紫

電子教材開発者向け

~WebGLを用いた3Dコンテンツ開発~		~iBooks Authorを用いた電子教材開発~			
2014/3/25	13:30~15:00	伊都	2014/3/25	15:30~17:00	伊都
2014/3/27	13:30~15:00	箱崎	2014/3/27	15:30~17:00	箱崎
2014/3/28	13:30~15:00	病院	2014/3/28	15:30~17:00	病院

講演会「Web学習システム (学習管理システム) を利用した教育実践」 2014/2/20 15:00~17:00 箱崎 【主会場】旧工学部本館 2階 4番講義室

伊都	【遠隔】センター1号館1302講義室	病院	【遠隔】臨床研究棟1階カンファレンスルーム
筑紫	【遠隔】E棟101号室	大橋	【遠隔】産学連携センター3階会議・セミナー室

※遠隔: 遠隔講義システム利用

講習会・講演会情報 ▶ http://icer.kyushu-u.ac.jp/seminar_cal

教材作成をサポートします!

電子教材開発のための素材をご用意いただければ、教材を開発する場合のノウハウや技術面について教材開発センターがサポートさせていただきます。例えば、『学生がWebブラウザ上で教材コンテンツを見れるようにしたい』、『iPadやiPhoneを利用して教材コンテンツの閲覧を学生にさせながら講義を行いたい』、『教材を電子書籍として開発し学外に公開したい』、など、このようなご希望がございましたら、教材開発センターにご相談ください。

▶▶ 詳しくは、教材開発センターウェブサイト (<http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/>) まで ◀◀